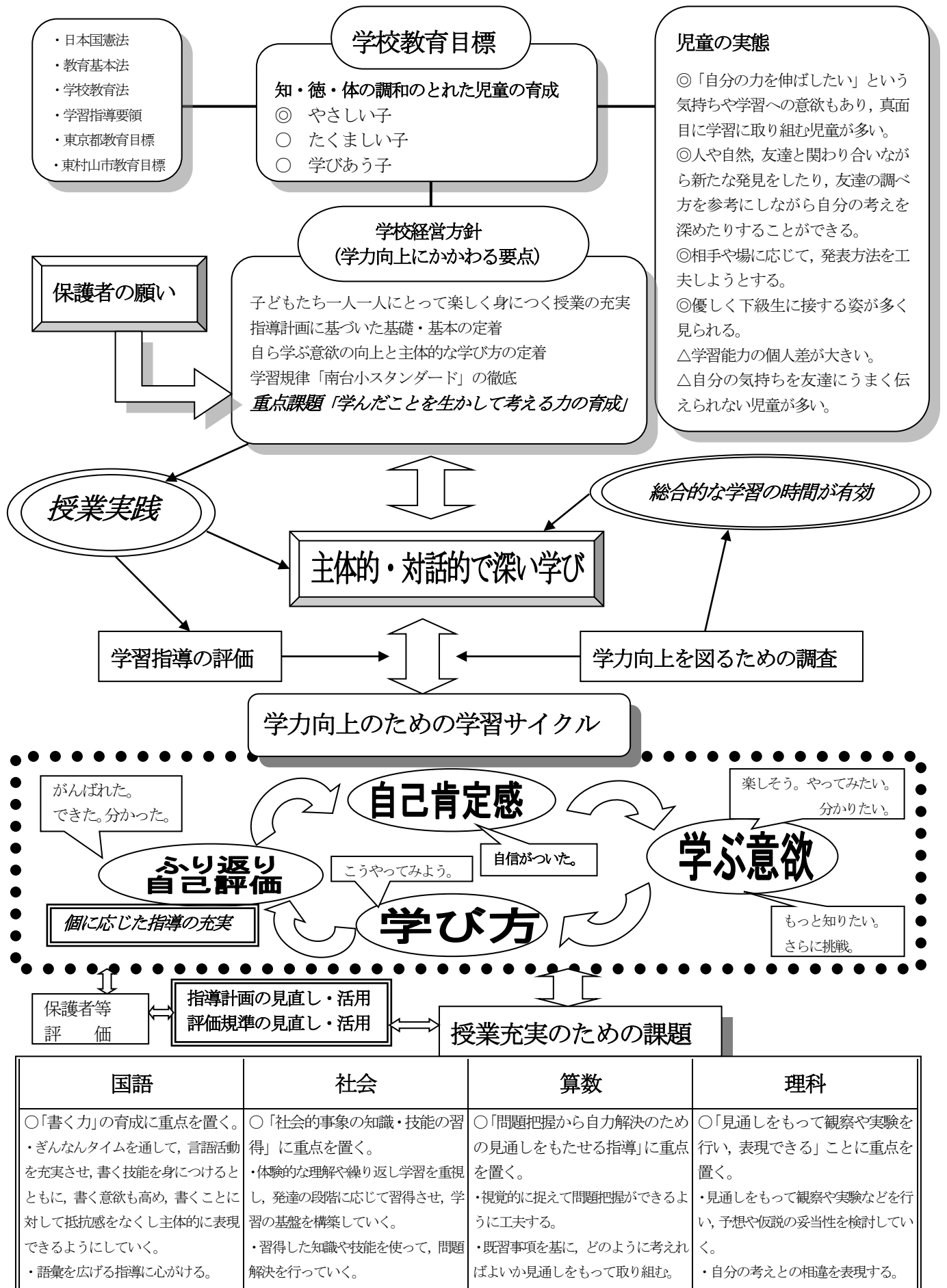


東村山市立南台小学校 平成30年度 学力向上を図るための全体計画



平成30年度 授業改善推進プラン（1年生）

教科	観点	児童の実態・課題	より充実させるための具体策
国語	学ぶ意欲	概ね意欲的に取り組んでいるが、文字の読み書きがまだ不十分な児童がいる。	文字の読み書きは、家庭学習や朝学習で繰り返し練習するとともに、個別指導を大切に、頑張りや成果を認める。朝読書や読み聞かせを継続的に行い、本に親しませる。友達のよいところを認め合う場を設け、学び合う関係をつくる。
	学び方	落ち着いて最後まで話を聞ける児童が多い。一方、話の内容を理解することが難しい児童もいる。覚えた文字を上手に書こうと努力している。短作文の学習を始めたが、個人差が大きい。	理解が難しい児童には、個別指導を続ける。音読を重視し、文の内容を読み取る力を付ける。ぎんなんタイム等を活用し、継続的に視写や短作文に取り組む。
	自己評価	覚えたひらがなを読んだり、書いたり、文作りをしたりして、文字や言葉を身近に感じている。	言語活動においてできるようになったこと、努力したことを認め励ます。
算数	学ぶ意欲	数や計算に興味をもち、正確に書いたり解いたりする等、意欲的に学習している。	導入部分を大切に扱い、興味・関心をもたせる。算数的な活動を通して体験的に学ばせる。学習に取り組む姿や努力を認め励ます。
	学び方	「数」についての基礎的なことは、おおむね理解できている。問題文の内容を理解するのに時間を要する児童がいる。計算カードを使って、たし算・ひき算の練習を毎日継続的に行っている。少しずつノートの書き方を統一して指導している。	計算のしかたや、問題文の内容を理解しやすいように、半具体物の操作活動を取り入れたり、教材教具を工夫したりする。また、必要に応じて個別指導を行う。引き続き計算カードを使ってたし算・ひき算の練習をし、定着を図る。日ごろのノート指導を充実させ、書いて表現することに慣れさせる。ペア等になり、自分の考えを友達に説明する場を持つ。
	自己評価	分かったこと、できたことを素直に喜んでいる。	分かった、できたという経験を積み重ね、次への意欲につながるようにする。
生活	学ぶ意欲	自然や人とのふれあいを喜び、楽しく活動することができている。	興味・関心を大切に活動を取り入れる。助け合い、教え合いなど、協力して取り組む内容を取り入れる。
	学び方	楽しく活動し、気付いたことや分かったことを絵や言葉で表現している。	自分の考えを表現するだけでなく、友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりして、人との関わりを豊かにする活動を取り入れる。
	自己評価	自然や人と関わり、楽しく活動できたことに満足している児童が多い。	豊かな関わりにつながる声かけを工夫する。

平成30年度 授業改善推進プラン（2年生）

教科	観点	児童の実態・課題	より充実させるための具体策
国語	学ぶ意欲	すすんで発言できる児童が多い。音読にも意欲的に取り組んでいる。 自分の考えをまとめて表現することが難しい児童もいる。	ワークシート等を活用して自分の考えを明確にし、分かりやすく伝えられるようにする。
	学び方	「書く」ことに意欲的な児童が多い。少しずつ書く力が身についてきている。 漢字のさらなる定着を目指していく。	漢字ミニテストを定期的に行い定着を図る。 年間を通してミニ作文を書かせ、指導することで書く力を高めていく。また、ぎんなんタイムでの言語活動を充実させ、言語能力を高めていく。
	自己評価	学習を通して理解が深まったことに気付いている。	感想の交流など、友達から認められる場の設定を工夫する。
算数	学ぶ意欲	意欲的に学習に取り組んでいる。	繰り返し問題に取り組ませることで、達成感をもたせる。
	学び方	学習内容の理解の様子に個人差が見られる。 くり上がり、くり下がり等定着してきているが、計算の速さ・正確さが不十分である。	理解が不確かな児童には個別指導を行う。 朝自習や家庭学習の時間に、東村山市基礎ドリルなどの補充問題を用いて、基礎基本の充実を図る。
	自己評価	単元によっては理解が難しいところもあったが、学習を積み重ねて自信をつけている。	振り返りを個別指導に生かし、次の学習への意欲をもたせるように支援する。
生活	学ぶ意欲	意欲的に学習に取り組んでいる。 日常的に植物・生き物を世話をしているが、時間がたつと関心が薄れてしまう児童もいる。	観察カードを書かせることで動植物の変化に目を向けさせていく。
	学び方	上学年としてペアの一年生にやさしく接し、かかわりを深めている。	事前に十分な準備をさせ、自信をもって活動できるように支援する。 感想の交流など、友達や1年生から認められる場の設定を工夫する。
	自己評価	活動の後に自己評価をすることで活動内容を確認し、友達や自分の様子をふりかえることができている。	活動を振り返って、次の学習への意欲をもたせるように支援する。

平成30年度 授業改善推進プラン（3年生）

教科	観点	児童の実態・課題	より充実させるための具体策
国語	学ぶ意欲	漢字学習や音読など、意欲的に取り組むことができる。 丁寧に文字を書くことに課題がある。	友達の話を聞くことを大切に、発表する意欲へとつなげる。 落ち着いて文字を書くことを日々意識させる。
	学び方	「話す・聞く」「読む」「書く」力は発達段階に応じて身につけてきている。 漢字の定着に課題がある。	「話す・聞く」「書く」機会を設ける。漢字の定着を高めるために繰り返し学習する時間を設定する。ぎんなんタイムを活用し、言語能力を高めていく。
	自己評価	振り返りを通して自分のできたこと、がんばったことに気付いている。	児童がめあてをもって活動し、活動の最後には感想の交流や友達との認め合いなどの振り返りの場を設定する。
社会	学ぶ意欲	学区めぐりや市内めぐりなど、地域に出かけていき、意欲的に見学している。調べて分かったことを友達と交流しながら学び合っている。	一人一人の課題を明確にして学ぶ意欲を伸ばす。児童が意欲的に取り組むことができるような単元計画を設定する。
	学び方	調べたり、見学してきたりしたことを記録することはできている。 相手にわかりやすくまとめる工夫には課題がある。	資料の集め方や、メモの取り方、分かったことのみまとめ方などについて指導する。自分が調べたことを発表したり、友達の発表を聞いたりする活動を通して、自分の考えを深めていく。
	自己評価	学習のまとめでは友達や自分の活動について振り返ることができている。	学習のまとめでは、分かったことやさらに調べたいこと、これから自分たちの生活に生かしたいことなどを発表させ、次の学習の意欲へとつなげる機会を設ける。
算数	学ぶ意欲	自分の考えを積極的に発言する児童も多く、意欲的に学習に取り組んでいる。	日常生活との関連を大切に扱い、意欲を引き出していく。
	学び方	自分の考えや学習したことをノートに表現するなど、学び方を身に付け始めている。自分の考えが相手に伝わるようわかりやすくまとめる工夫には課題がある。	継続してノート指導を行い、その中で問題場面の読み取り方や見通しのもち方、学習したことのまとめ方を指導する。実際に調べたり測定したりする体験を大切に、豊かな感覚を養う。東村山市版算数基礎ドリルや東京ベーシックドリル、プリントを活用して、習熟をはかる。
	自己評価	興味・関心については正しく評価できているが、理解や技能に関しては難しい面がある。	授業のねらいをはっきりさせ、児童が授業ごとに目標をもって取り組めるようにする。繰り返し演習を行い、授業で学習したことを定着させる。
理科	学ぶ意欲	自然とのふれあいや友達との学び合いを通して、楽しく活動することができている。	児童の興味・関心を大切に、身に付ける力を明確にして単元計画を設定する。
	学び方	観察や実験に意欲的に取り組み、気付いたことや分かったことを絵や言葉で表現している。	自分の考えを友達に伝えたり友達の考えを聞いたりする活動を通して考え方を比較し、自分の考えを深めたり、友達との関わりを豊かにしたりしていく。
	自己評価	めあてをもって、自然や人とかかわることができている。	自分のめあてに対する振り返りをさせるとともに、分かったことやさらに調べたいことなどを発表させる機会を設ける。

平成30年度 授業改善推進プラン（4年生）

教科	観点	児童の実態・課題	より充実させるための具体策
国語	学ぶ意欲	場面の様子に関心をもって読んでいる。漢字練習や音読など、意欲をもって取り組むことができる。	段落相互の関係を捉えて読むことができるようにする。新出漢字の習熟を図り、すすんで生活に生かすことができるようにする。
	学び方	自分の考えを意欲的にワークシートに書く児童が多い。書いた考えを発表することに対して消極的な児童もいる。	書くことにより、自分の考えを明確にして発表できるようにする。いろいろな形態で意見を交流することにより、自分の考えを深めたり、広げたりできるようにする。ぎんなんタイムを通して、言語能力を高め、書く活動に生かしていく。
	自己評価	めあてに沿ってふり返ることができるが、友達のととの違いや共通点を見付けることができていない児童が数名いる。	学習感想の視点を与えることで、友達の考えを意識して自分の考えをふり返ることができるようにする。
社会	学ぶ意欲	地域社会と自分の生活との関わりに関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。	調べる、見学するなど、生活と結びつけていくことにより、さらに興味・関心をもたせる。
	学び方	自分で資料を探し、調べてまとめることができる児童がいるが、どのようにして調べ、まとめたらいのか迷っている児童もいる。	ねらいをはっきりさせて調べたり、見学させたりする。資料の収集のしかた、メモの取り方、まとめ方などについて指導する。必要に応じて個別指導をする。
	自己評価	自分の生活と結びつけて自己評価をし、学んだことを生活に生かそうとしている児童が多い。	自分の生活と地域社会との関わりについて、分かったこと、さらに調べたいこと、生活に生かしたいことなどを意識させ、次の学習へとつなげる。
算数	学ぶ意欲	学習内容が難しくなり、苦手意識を感じ始めている児童もいるが、粘り強く努力している。	日常生活との関連を大切にしていきながら、意欲的に取り組めるように教材を工夫していく。
	学び方	学び方の基本は身に付いている。「問題場面の読み取り」「整数の四則計算」「コンパスや分度器等の道具を使いこなすこと」が苦手な児童もいる。	実際に測定したり作業したりする体験を大切に、豊かな感覚を養うとともに、様々な道具が使いこなせるようにする。東村山市版算数基礎ドリルや東京ベーシックドリル、プリントを活用して、学習内容の習熟をはかる。単元に応じて、少人数グループの編成を工夫する。
	自己評価	学習への意欲や、学習内容の理解を適切に振り返っている。	授業のねらいをはっきりさせ、児童が授業ごとに目標をもって取り組めるようにする。がんばっていることや上達してきたことを積極的に認めていく。
理科	学ぶ意欲	観察や実験に興味を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。	導入を工夫したり、課題に対して予想を立てさせたりして、興味・関心をもたせることにより、ねらいに沿って観察・実験できるようにする。
	学び方	観察や実験をして気付いたことや分かったことを、絵や言葉で表現している。しかし、ねらいに沿ってまとめることが難しい児童もいる。	ねらいに沿った観察・実験やまとめができるように、机間指導や支援をする。
	自己評価	学んだことや観察・実験したことを生活の中で確かめたり、さらに発展させていこうという思いをもったりする児童が多い。	観察・実験のねらいからまとめまで、学んだことをしっかり再確認をさせてから自己評価をさせる。発展的に学習しようとする児童には、助言をする。

平成30年度 授業改善推進プラン（5年生）

教科	観点	児童の実態・課題	より充実させるための具体策
国語	学ぶ意欲	関心をもって文章を読むことができている。漢字練習には意欲的に取り組んでいるが、学んだ言葉や漢字が生活の中で生かされていない児童もいる。また、長い文章を書くことに抵抗感がある。	学習した漢字を活用していく機会を増やすことで、漢字の習熟を図りたい。書く対象を意識して、伝えるために書く活動を取り入れていく。
	学び方	自分の意見を発表することができる児童が多い。一方で、自信がもてず、発表に対して消極的な児童もいる。読書はすすんで行うが、分野が限られている。	自分の考えをノートや学習シート等を書く時間を十分にとったり、小グループでの話し合いを取り入れたりして自信をもって発表できるようにする。読書タイムを活用して異なる分野の本にも触れることができるよう声掛けをしていく。また、ぎんなんタイムでの言語活動を通して、書く力の素地を養っていく。
	自己評価	単元ごとのねらいに沿って、学習内容をふり返ることができている。	物語文の主題・説明文の要旨について、友達の考えを参考にしながら、自分の考えを深めたり広げたりすることができたかを、意識させる。
社会	学ぶ意欲	我が国の産業や国土の様子に関心をもって、学習に取り組んでいる。	実感を伴った学習ができるように、写真や動画などの具体的な資料を準備する。
	学び方	自分で課題を見つけ、解決していく過程において、積極的に活動できる児童もいるが、支援が必要な児童もいる。	その資料から何がわかったか、自分はどうか考えたか等を、グループや全体で話し合う場を設ける。ノートや学習シートなどにまとめるとき自分の言葉に置き換えて説明できるように助言する。
	自己評価	単元ごとのねらいや学習内容を把握し、ふり返ることができている。	観点を提示し、資料をもとに事実を読み取れたか、課題を分かりやすくまとめられたか等、友達の良い例を参考にしながら振り返らせる。
算数	学ぶ意欲	学習に対する基本的な姿勢は身に付いているが、受け身な部分がある。算数に対して苦手意識をもつ児童がいる。	導入に力点を置き、課題にしっかりと向き合わせる。「わかる・できる」体験をさせる。学んだことを日常場面や社会に関連づけて興味関心をもたせる。
	学び方	新しい問題場面に出会った時に、これまで学習したことを活用しながら、自分なりの考えや見通しを持てるようにしたいが、既習の習得や習熟の程度に個人差がある。	考える時間を十分に取し、適宜支援する。解き方が思い浮かばない時にどうしたらいいのか、考え方についても助言していく。グループ学習を取り入れ、考えたことを説明しあう機会を増やす。東村山市版算数基礎ドリルや東京ベーシックドリル、プリントを活用し習熟をはかる。単元に応じてグループ編成を工夫する。
	自己評価	学習に対する意欲や、学習内容の理解を適切に振り返っている。	振り返りを復習や更なる学習に役立てられるように支援する。数学的な考え方についても振り返りができるよう授業のまとめ方を工夫する。
理科	学ぶ意欲	観察や実験に興味を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。	導入を工夫したり、課題に対して予想を立てさせたりして、興味関心をもたせ、観察・実験をねらいに沿ってできるようにする。
	学び方	観察・実験をして分かったことや気付いたことを、絵や言葉で表現することができている。ねらいに沿った観察・実験ができる児童も多い。	自分の疑問や考えを大切に筋道を立てて予想させ、言葉で表現させるように指導する。
	自己評価	単元ごとのねらいに沿って、学習内容をふり返ることができている。	予想・実験・観察・考察という流れを踏まえ、子供が学んだことを自ら再確認できるように促してから自己評価をさせる。

平成30年度 授業改善推進プラン（6年生）

教科	観点	児童の実態・課題	より充実させるための具体策
国語	学ぶ意欲	関心をもって文章を読むことはできているが、自分の考えをもつことができない児童が多少いる。また、学んだ言葉や漢字が生活の中で生かされていない児童もいる。	初発の感想を重視して課題設定することによって興味・関心をもって内容を理解できるようにする。言語の学習では、文章を作る時や話し合い活動の中で、特に熟語に重点をおいて習熟を図り、生活に生かせるようにする。
	学び方	自分の考えや友達の意見などを意欲的にノートや学習シートに書いたり発表したりしている児童が多い。自信がもてず、発表に対して消極的な児童もいる。消極的な児童の中でも、昨年に比べ自分の考えを伝えるようになってきた。	書くことによって、自分の考えを明確にし発表できるようにする。また、少人数で話し合う場を設け、少人数での話し合いで発表できるようにする。ぎんなんタイムでの言語活動を通して、書く力の素地を養っていく。また、東村山市国語基礎ドリルを活用し、言語の習熟を図る。
	自己評価	単元ごとのねらいや学習内容を把握し、振り返ることはできている。	物語文の主題・説明文の要旨について、友達の考えを参考にしながら、自分の考えを深めたり広げたりすることができたかを、意識させる。
社会	学ぶ意欲	新しい事象については、関心を持って学習に取り組んでいる。調べたりまとめたりする活動の意欲の高い児童が多い。個別に声を掛けて学習に取り組む意欲を引き出さなければならない児童もいる。	発言や資料の扱い方、まとめ方について、参考になる児童のものを取り上げ、具体的にそのよさを例示し認め、よりよく活動しようとする意欲を継続させる。資料を読み取るための言語力を補うような言葉掛けを行う。
	学び方	自分で課題を見つけ、解決していく過程において、積極的に活動できる児童もいるが、支援が必要な児童もいる。	その資料から何がわかったか、自分はどうか考えたか等をグループや全体で交流し合う場を設ける。ノートや学習シートなどに自分の言葉でまとめるように助言する。
	自己評価	単元ごとのねらいや学習内容を把握し、振り返ることはできている。	資料をもとに事実を読み取れたか、資料の読み取り方や課題のまとめ方について友達のよい例を参考にできたかなど、観点を分かりやすく提示する。
算数	学ぶ意欲	意欲的に学習に取り組んでいる。しかし苦手な問題には受け身で意欲が下がる児童もいる。	導入に力点を置き、課題にしっかりと向き合わせる。「わかる・できる」体験をさせる。学んだことを日常場面や社会に関連づけて興味関心をもたせる。
	学び方	新しい問題場面に出会った時に、これまで学習したことを活用しながら、自分なりの考えや見通しをもてるようにしたいが、既習の習得や習熟の程度に個人差がある。	考える時間を十分に取り、適宜支援する。解き方が思い浮かばない時にどうしたらいいのか、考え方についても助言していく。グループ学習を取り入れ、考えたことを説明しあう機会を増やす。東村山市版算数基礎ドリルや東京ベーシックドリル、プリントを活用し習熟をはかる。単元に応じてグループ編成を工夫する。
	自己評価	学習に対する意欲や、学習内容の理解を適切に振り返っている。	振り返りを復習や更なる学習に役立てられるように支援する。数学的な考え方についても振り返りができるよう授業のまとめ方を工夫する。
理科	学ぶ意欲	観察や実験に興味をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。	導入を工夫したり、課題に対して予想を立てさせたりして、興味・関心をもたせ、観察・実験をねらいに沿ってできるようにする。
	学び方	自分なりの考えをもって予想を立てたり、考察したりすることはできているものの、上手く言葉や文章で表現することが難しい児童もいる。	自分の疑問や考えを大切に筋道を立てて予想させ、言葉で表現させるように指導する。
	自己評価	単元ごとのねらいや学習内容を把握し、振り返ることはできている。	予想からまとめまでを自己評価し、観点をより明確にして振り返ることができるようにする。

平成30年度 授業改善推進プラン（専科）

教科	観点	児童の実態・課題	より充実させるための具体策
音楽	学ぶ意欲	表現や鑑賞の各活動に意欲的で、伸び伸びと表現することができる児童が多い。	児童の実態に即した教材を選択し、指導法の工夫をしていく。
	学び方	楽曲の特徴やよさを感じ取り、自分の思いをもつことはできるが、それを自ら表現し、集団の中で生かしていこうとする力が弱い児童も見られる。	かかわり合いながら学び合う活動を通して、音楽をつくりあげていく楽しさや喜びを味わわせる。
	自己評価	新しく学習したことを生かして表現したり、思いを音で表現したりしようとしている。鍵盤ハーモニカやリコーダーの技能に苦手意識をもっている児童もいる。	題材のねらいに即した評価項目を設定し、次の学習に生かしていくことができるよう工夫する。スモールステップで課題を設定し、できる喜びを感じながら活動できるようにする。
図工	学ぶ意欲	造形活動に対する関心・意欲はたいへん高く、生き生きと取り組むことができる。	個々の児童にとって魅力的で楽しく、発達の特性と既習体験を生かした題材・活動内容の開発をする。校内展示を工夫し、鑑賞の体験から創造の意欲を引き出す。
	学び方	既習の経験を生かし、自分なりの発想を大切に、工夫して表そうとする。友達の作品や異学年の作品を鑑賞することを楽しみ、良さや意図を受け止めて励まし合うことができる。	豊かなかかわりを意識した題材（GTとの授業、共同製作等）、学び合い（鑑賞活動等）が生かされる題材を設定し、共同の活動が個の活動を広げていくように支援する。
	自己評価	活動や作品への満足度は高い。表現の技術をもっと身に着けたいと思う児童もいるが、全体として自己の表現を追求する粘り強さがさらに求められる。	互いの作品を鑑賞しあう活動や、評価と支援を充実し、個々の表現の工夫や思いの良さを励まし認め合いながら、自己肯定感と鑑賞の能力を育む。
家庭	学ぶ意欲	衣食住にどの内容においても関心が高い。特に実践的・体験的な学習では、意欲的に学習する児童が多い。	児童の興味・関心がどこにあるかを調査し、それを学習計画の中に活かしていく。また、生活を工夫する楽しさや、物を作る楽しさを味わわせさらに意欲を高める。
	学び方	失敗しても、途中であきらめずに最後まで取り組もうとしている。また、学んだことを生活の中で活かそうとする児童が増えている。	身の回りの生活に目を向けさせ、そこから課題を見つけ、学んでいくようにする。また、学んだことを家庭でも実践させ、身に付けていけるようにする。
	自己評価	調理、衣服の手入れ、布を用いた製作等、生活に関する知識や技能が高まっていくことに喜びをもっている。針と糸を使う作業では、苦手意識を持っている児童も見られる。	1人1人の良さに目を向け、児童が自分の成長に気付けるような言葉かけや指導をしていく。また、できる喜びを感じながら活動できるようにし、次の意欲につなげていく。